

学校運営計画 (4月)					
学校運営方針	高校生活を通して、確かな学力を身につけ、豊かな人格と健全な身体を育み、グローバル社会を生きぬく国際感覚を磨く。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	評価		
<p>難関私立大学の合格者が増えてきたが、国公立大学の合格者数は横ばいである為、一人でも多く合格者を出すことに努力を注ぎたい。</p> <p>GIGAスクール構想により本年度の1年生からタブレットが準備される。生徒に探求学習を行わせるにはタブレットは不可欠。探求した経験がAO入試や、面接試験に活かされるよう指導していきたい。</p> <p>2022年度から新学習指導要領が導入される。本校も3年前より準備を進めており、本年度は主体的、対話的で深い学びの視点からカリキュラムを5月中に決定し来年度に備える。また、観点別評価も始まるので、3観点到重きを置いた生徒個々の評価をどのようにすべきか各教科主任を中心に決定していく。</p> <p>地元との連携強化は一層おし進める。地方の私学こそ地元の信頼が大切である。今後とも地域・地元中学校と積極的に関係を保ち連携を強めたい。</p>	学習指導の充実	知識及び技能の取得 思考力・判断力・表現力の育成	○知識を生かして考え、伝えるための「思考力・判断力・表現力」を身に付けさせる。	B	
				○社会に活かすことが出来る「知識と技能」をつけさせる。	B
		「資質・能力」を総合的に学ばせる	○社会や人生に生かす意識をもたせるための学びに向かう力と人間性を身に付かせる。	B	
	進路指導の充実	きめ細やかな進路指導	○生徒一人ひとりの希望に応じた進路を決定する。 ○十分な時間をかけ生徒一人ひとりの適性を判断する。 ○生徒自身の進路に対する意識を高める。	B	
		計画的な進路に関する行事	○大学見学、体験学習、職場見学など、年間を通して計画をしっかりと立てる。	A	
	生活指導の徹底	基本的生活習慣の確立	○高校生として基本的生活習慣を身につけさせる。	B	
		いじめ未然防止活動の充実	○毎日の学校生活において他者への興味・関心を持たせ、コミュニケーション能力を育成し、いじめがいかにか非道な行為かを理解させる。生徒一人ひとりの個性を理解し、小さな変化に気づく目を養い、いじめ未然防止に努める。	C	
		安全教育の充実	○交通安全教育・SNS適正利用教育・薬物乱用防止教育・防災教育を充実させ、身近な生活の中で危険が多いことを理解し、意識を高める。	B	
	その他	カリキュラムマネジメント	○総合的な探究の時間を充実させるため、各学年と協力し、見通しを持って学ぶためのキャリアパスポートを活用する。	B	
			○教育活動におけるPDCAサイクルを促進する。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	基礎学力の向上	辞書を引く習慣を身に付けさせ、それぞれの言葉の正しい定義を理解させる。	D	辞書については根本的に考え直す必要がある。パソコンやスマホの有効利用や、紙の辞書の利用を考えたい。カリキュラムの関係で授業見学が出来なかったため、他の方法を考えたい。
		漢字の書き取りの練習をさせる。	C	
		漢字検定を積極的に受けさせる。また、合格率を上げる。	C	
		「読む」「話す」「書く」ことを反復させる。	B	
	授業の改善	一方的な授業ではなく、双方向の授業になるように努める。	B	
		担当している生徒やクラスのGTZを向上させる。	C	
		共通テストを視野に入れた指導を行う。	B	
		他教員の授業見学を積極的に行う。	D	
地歴公民	基礎学力の向上	基本的な学習習慣を身につけさせる。	B	ITCを活用した授業内容の充実を目指す。 補助教材を使用し、予習の定着を目指す。 また、生徒にテーマ発表の場を設ける努力をする。
		基礎・基本を大切に、わからない語句を自ら調べさせることにより、内容を理解させる。	C	
		補助教材を使用した予習・復習を促し知識の定着を図る。	B	
	興味・関心を高める授業の工夫	講義だけではなく、ICTを活用し映像資料・新聞記事などの身近な教材等を積極的に活用し、興味・関心を高める。	B	
		興味・関心を抱いたことから、社会のモラルやルールを理解し、実生活での実践力を身につけさせる。	C	
	表現力の向上	身近な社会問題を題材として、生徒に意見を発表させ思考力を育てる。	D	
数学	数学に対する関心の向上	身近な例から数学に対する興味・関心を高める。また、生徒のICT活用を促進させる。	C	授業の復習の定着を図る。また、生徒のITC活用を促進させる。
		生徒の興味・関心があるものを取り入れた授業を行う。	C	
	基礎学力の向上	定期的に小テスト等を実施し、基礎学力の向上を図る。	B	
		教科書、問題集やプリント等から宿題を与え、予習・復習の習慣化を図る。	B	
		理解不足や疑問のある生徒が自主的に復習し、質問等に求められる環境をつくる。	B	
	数学的考察力の強化	既習の内容を用いて様々な発展問題に取り組ませる。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
外国語	基礎学力の向上	授業進度、発問内容、課題、アクティビティなどがクラスごとの習熟度・技能に合っているか定期的に教科会で共有し、生徒の理解度を測る。	B	まだまだ基本的な内容が定着していないため、全体的に基礎学力の底上を目指したい。1つの目安として、検定合格者を増やすようにしていきたい。また、PCを用いて、オンライン学習を促し、自宅での学習習慣が身につくように指導していきたい。
		授業内で復習テストや単語テストを定期的実施し、基礎学力の定着を目指す。	B	
	英語力の更なる向上	実用技能英語検定の受検を推奨し、検定合格者を増やすことを目指す。また、検定対策を補習や講習を通じて検定取得のサポートをする。	B	
		ネイティブ講師と協力し、授業内でアウトプットする機会を設け、実用的な英語の習得を目指す。	B	
	家庭学習の習慣化	定期的な小テストを確立し、小テストに向けた自宅学習を促す。	B	
		実力テストに向けた計画的学習と振り返り学習の指導を徹底する。	C	
	授業の工夫と改善	実力テストや英語民間試験の結果を分析し、授業の改善に役立てる。	B	
		定期的に教科会を開き、意見を交換する。また、研修会にも積極的に参加し内容を共有する。	A	
理科	基礎学力の向上	授業内での小テストや問題演習を通して基礎の定着をはかる。	B	PC等を有効活用して生徒の興味関心を引くような授業を目指したい。
	自然の事物・現象に主体的にかかわり、科学的に探求しようとする態度を養う	授業内の発問により、生徒の意見を多く発信させる。	A	
		授業において、生徒の興味・関心等に応じて、自然や科学技術に関連した課題を出し考察させる。	B	
		ICT機器を用いたデジタル教科書の活用や演示実験を通して、知的好奇心や探究心を喚起させる。	A	
	問題解決能力の向上	科学的課題にグループで協力し合いながら取り組み、発表させる。	B	
家庭	学習意欲の向上を図る	生徒が主体的に学習意欲をもって取り組めるような指導方法を日々研究し、授業に取り組む。	A	昨年度に引き続き調理実習が実施できなかったため、机上の学習のみとなってしまった。教材研究を重ねて生徒が主体的に学べるようさらなる工夫をしていきたい。
	生活に必要な知識・技術の習得	家庭生活を創造する上で必要な知識や技術を習得させ、生徒自身が実践の中で活用できるような力を育む。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
情報	情報社会へ参画する態度の育成	社会のモラルやルールを理解し、実生活での実践力を身につけさせる	A	次年度も、一人1台タブレットを持っているため、新たな授業形態を考えていきたい。また、プログラミング教育にも力を入れていく。
		情報社会の中に参画できるために、基礎的な情報に関する能力を身につけるさせる。	B	
	情報技術への知識・理解を深める	コンピュータ実技を通し、基礎的な操作方法を身につけさせる。	A	
保健体育	生涯を通して運動に親しむ資質や、健康の保持増進のための基礎体力の向上	体力テストや健康診断の結果をもとに個々の目標を設定・達成させ、その運動の楽しさや喜びを感じられるようにする。	A	運動の楽しさや技術習得に向けた授業の積み重ねが計画的にできていた。保健も含めてさらにICT機器を用いた授業展開を行いたい。
		生徒一人ひとりの能力・適正、興味・関心、体力や生活に応じて種目を選択し、指導法を工夫する。	A	
	基礎学力の向上と更なる意欲を育む	映像を使用したICT機器を積極的に取り組み、生徒との対話を実践させる。	B	
	生徒が自主的・意欲的に取り組める環境の整備	グループ活動により、各グループの課題や個人の課題に沿った練習内容を考え実践させる。	C	
		運動に積極的に取り組めるような活気あふれる雰囲気づくりを目指す。	A	
芸術	授業において芸術の幅広い活動の展開	生徒一人ひとりの個性を生かして、主体的に関わっていけるように支援する。	B	今年度は音楽、美術ともにオンライン授業を取り入れることができた。 また、それぞれの教科で新しい生活様式に即した授業展開も考え実行することができたと思う。 次年度よりICT機器を用いた授業展開を進めていきたいと考える。
		様々な芸術作品から作者の意図を読み取り、作品を深く知る。	B	
		実践的・体験的な諸活動を多く取り入れ、表現力を磨く。	A	
	生涯にわたり芸術を愛好する心情の育成	幅広い教材を取り上げ、生徒の芸術的な価値意識を一層拡大できるようにする。	A	
		生活を明るく豊かにする創造活動をしていくための基礎となる能力・資質を育てる。	A	
	我が国の伝統や諸外国の芸術・文化についての関心や理解の探求	日本の伝統音楽に触れる。(音楽)	A	
		西洋と日本の作品を比較し、日本伝統美術の独自性を考察する。(美術)	B	
		音楽の分野の歴史やその背景について学ぶ時間をつくる。	A	
美術作品の美しさや多様性を感じ取れるようにする。		A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
渉外部	P T A活動の推進	各種行事に多数の保護者が、積極的に参加できるよう内容を充実させ働きかける。	C	コロナ禍、保護者との交流が実現しなかった。社会情勢が安定し、交流、親睦の場を増やせるよう努力する。
		各種研修会に参加する。	C	
	広報活動の充実	広報誌の内容を吟味し、正確な情報を発信する。また、内容の充実に努める。	B	
入試広報部	中学校との信頼関係に基づく入試体制の確立	中学校の教員と連絡を密にとり、そこで得た情報を基に入試制度を改革する。	A	地域の「私立志向」を感じるようになってきた。今後は他地域私立高校との競争になることが予想される。この競争に勝利し、生徒を確保するためには更なる学校のレベルアップ(特色づくり)と営業活動の強化が必要である。
		中学校を窓口とする丁寧な入試業務を行う。	A	
	中長期的展望に立脚した入学者数の確保	定期的に中学校・学習塾を訪問し、本校教育の啓蒙に努める。	B	
		各コースの教育活動を充実させ、生徒のレベルアップをはかる。	C	
	広報活動の充実	ホームページ・パンフレット・ポスターを魅力的なものにする。	B	
		学校見学会・入試説明会など様々な広報活動を通して、本校の魅力を十分に伝える。	B	
生徒指導部	特別活動の充実	HR活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して心身の成長を促す。	B	コロナ禍でコミュニケーション力を育むというのは非常に難しい課題である。他者への興味関心も会話というコミュニケーションがあつて初めて生まれるものだと思うので、状況に応じた策を常に考えておかなければいけないと感じる。
	学校生活を通じた人格形成	学校生活を通して、心身ともに健全な人間を育てる。	B	
		学校生活を通して、他者への興味・関心を持たせ、他者への理解を深める。	C	
		学校生活を通して、協調性を育み、社会に出て通用するコミュニケーション能力を育てる。	B	
いじめ未然防止活動	日常のコミュニケーション、面談、アンケート等を徹底して行い、いじめ未然防止に努める。	B		
寮生部	安全管理	第一寮、第二寮別々で避難訓練を学期に一回は必ず行う。	A	コロナ禍の中、寮内でクラスターが発生しないよう継続してマスクの着用や部屋の換気など徹底して指導していきたい。
		コロナ禍の中、外出や外泊をする際は必ず許可を取り、届け出をしっかりと提出させる。	A	
	基本的生活習慣の確立	起床時間や消灯時間を徹底させるとともに、体調・体温の確認を朝と夜の二回行う。	A	
		規律ある共同生活を行うことにより、将来にわたる人間形成に資する教育を行う。	B	
		日勤舎監とも連携を密にしながら、清掃状況などのチェックをしっかりと行う。	B	
学習習慣の定着	自主的に学習するよう生徒に目標をもたせ、学習時間を徹底させる。	B		
強化部	心身の健全な発達	運動の楽しさを感じながら、各種専門的な技術を高める。	A	コロナ禍で部活動の制限がある中、各部活が感染対策をしっかりとこないながら工夫して活動が行えた。
		他の生徒の模範となる言動を心掛けさせる。	A	
	広報活動の充実	次年度に向けても優秀な生徒（選手）を一人でも多く獲得できるように募集活動を積極的に行う。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
保健環境部	学習環境の整備	黒板・掲示物・窓枠・網戸・清掃用具入れの点検・整備をする。	A	周辺地域との関わり（清掃や防災）に取り組んでいきたい。
		机・椅子・教卓・黒板消しクリーナー・電子黒板の保全・点検をする。	A	
	環境美化意識の充実	環境美化委員会を動員して、校内の美化に努める。	A	
		資源ごみ・可燃ごみなど分類の徹底を図る。周辺地域の清掃にも取り組む。	B	
	防災・避難訓練の充実	防災総合避難訓練・緊急地震速報による訓練などを実施する。	A	
		地域の関係機関と連絡を取り合うなど、防災への取り組みを充実させる。	C	
	心身の健康管理能力の育成	定期健康診断や保健教育を計画的に実施する。	A	
		心身の健康問題に対して早期に対応し、自ら健康的な生活を送ろうとする態度を育てる。	B	
健康・安全教育の充実	保健・安全に関する情報発信を積極的に行う。	A		
	感染症予防のための指導と環境整備をする。	A		
教務部	主体的で深い学びに向けた授業改善	育成したい力を明確にし、その力を育成するための具体的な手立てを明らかにした研究授業を実施する。	B	一人1台PCのさらなる活用機会創出のため、様々な活用シーンの提案をしていきたい。
		授業内容の向上のため、適切な時期に授業アンケートを実施をする。	C	
	進路実現のための学力向上	本校の現状にあった教育課程を弾力的に検討・編成する。	A	
		教務規定の見直しを引き続き行う。	B	
在籍管理と転編入学の円滑な実施	在籍管理を徹底するとともに、転編入学の手続きについて、円滑に進める。	A		
事務室	緊急時の対策	緊急発令があった場合を想定し、生徒・教職員の安全確保に備える。	A	落雷が原因とする、設備の不具合が生じたが、今回を教訓として視野を広げ改善に取り組んでいきたい。
		校舎、学生寮等の設備点検を行う。	A	
	個人情報の管理	郵便物、提出資料の受付記録をしっかりと記録管理する。	B	
		生徒、教職員の個人情報管理をしっかりと行う。	A	
	電話・窓口対応の心遣い	相手が見えない電話での対応には丁寧な言葉対応を心がけ、相手に不愉快な思いをさせない。	A	
		言動には注意し、明るく丁寧な対応をする。また新型コロナ感染拡大防止対策をする。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国際部	安心・安全な留学生活	留学生への新型コロナウイルス感染拡大予防対策の周知と理解を徹底する。	A	情報の共有や丁寧な説明を繰り返すことで、コロナ禍において、落ち着いた留学生活が送れていた。これまで数々の苦い経験を踏まえ、保護者との距離感や情報共有の仕方が功を奏したと思われる。生活面では、自律した生活習慣の確立ができておらず、自己解決能力のない留学生が散見される。自治会を活発に機能させ、卒業後を見据えた寮生活を目指したい。
		共同生活を送る上で、基本的な生活習慣の確立や他者への配慮を養う教育やサポートを行う。	B	
		国の体制や価値観の異なる保護者へ、日本国内の状況や対策について丁寧な案内と対応を心掛ける。	A	
	留学・留学生を通じた国際理解と多様性の受容	留学生は日本での留学生活を通し、その文化や価値観を体得し、尊重する心を養う。	B	
		職員は留学生を通し、グローバルな視点を養い、その多様性を受け入れる土壌を創る。	B	
		言語や文化など相互交流を通し、互いの文化や価値観を知り、それを尊重する心を育む。	C	
	留学生の能力・魅力を発揮できる場の提供	内部・外部問わず、コロナ禍においても参加できるイベント等を積極的に案内し、個々の興味関心のある分野で能力を発揮できるようサポートする。	A	
	自律した留学生活	学習や学校生活を通し、自己解決能力を育む。職員は留学生が課題を解決する道筋や方向を示す。	C	
卒業後の留学生活を見すえ、自律した生活習慣が身に付けられるよう導く。		C		
進路指導部	生徒の主体的な進路選択の支援	進路ガイダンスや学年集会などを通し、進路への意識の向上をはかり、希望進路実現のために何が必要かを考えさせる。	B	オンラインやPCなどを活用して進路行事を実施したが、より効果を上げるための工夫が必要。総合的な学習での指導については学年、担任の努力に負うところが大きいのでより計画的で組織的な指導を行っていく。
		多様な進路希望に対応できるよう、資料やPC環境の充実させ、利活用を促進する。また、個人の携帯電話などを活用した進路学習の指導を充実させる。	B	
		生徒面談や三者面談によって、生徒一人ひとりの希望・適性に応じた進路相談を行なう。	A	
		総合的な学習や進路行事を通じて、3年間を見通した進路指導を行なう。	B	
	生徒の希望進路実現のための支援	生徒の希望進路実現のために、教員一人ひとりが授業の質を向上させるとともに、各教科で授業研修を行い全体としての指導力向上に努める。	B	
		実力テストや模擬試験の結果を分析し、進路指導部・学年・教科で共有し指導の向上に活かす。	B	
		夏期講習・冬期講習・放課後のゼミを実施するとともに、Classiの活用によって、成績上位層だけではなく、留学生も含めた全体の学力向上を図る。	A	
		オンライン学習の充実を図る。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
学校図書館	利用者数・貸出数の増加	地域の図書館と連携し、団体貸出などを利用することで、生徒により多くの読書の機会を与える。	A	潮来市立図書館との連携により、団体貸し出しや電子書籍（2万冊）を利用することで、朝読書の時間等を充実させることができた。また、今年度の卒業生よりテーブルを寄贈して頂いたので、生徒にもっと活用してもらえよう努めていきたい。
		様々な授業で図書館を活用してもらうことで、図書館に対する認知度を上げ、利用者拡大につなげる。	B	
		生徒や教員に希望図書などのアンケートを実施し、ニーズに合った図書館づくりに取り組む。	B	
		図書館内の掲示物や配置などを工夫し、利用しやすい環境づくりに取り組む。	A	
	本に親しむ環境づくり	図書委員会の活動の場を増やし、生徒に図書委員としての自覚を持たせるとともに図書委員会の活性化を図る。	B	
		学習・読書の情報センターとしての図書館だけでなく、生徒にとって居場所の1つとなる環境づくりに取り組む。	B	
1学年	基本的な生活習慣の確立	朝読書やLHR、学校行事を通し集団生活でマナーを身につける。	A	タブレットを導入した最初の学年で、試行錯誤しながらの1年だったと思う。今後は、更に活用方法を見出し有効に使っていきたい。また進路行事や学校行事はコロナ禍で、どの様に実施していくかが、今後の課題である。
	主体的な学ぶ意欲の向上	タブレットを活用し予復習などの習慣化や総合的な探求な時間を通して進路学習を行い、主体的に学ぶ意欲を育む。	B	
	将来を多角的に見据えた学力の向上	積極的な検定への挑戦や、校内外で実施されている様々な活動への参画を促す。	B	
2学年	基本的な生活習慣の確立	学年集会やLHR、総合的な探究の時間を通して挨拶や社会のマナーを身に付ける。	B	行事が制限される中、文化祭など新しい形態ではあるが学年が協力し生徒のために実施することができた。また、各クラスが総合的な探究の時間などを通して受験形式の説明や進路指導をしっかりと行ってくれた。次年度も新しい生活様式の中で、できることを模索し、生徒のために行動していく。
	豊かな人格形成	学校生活や部活動を通して強い精神力を身に付け、豊かな人格を育む。	A	
	将来を見すえた学習指導	受験方法が多様化する中で、受験方法に応じた学力の構築、小論文の指導を徹底する。	A	
3学年	社会人としてのマナーの確立	基本的な生活習慣を確立し、進路指導と関連付けて社会人としてのマナーを身に付ける。	A	休校が続いたり、分散登校・オンライン授業等通常の進路指導ができなかった。そのため継続的に指導していく難しさがあった。個別指導に力を入れ、時間をかけることによって生徒もモチベーションを上げることができた。
	思考力・判断力・表現力の向上	最上級生としての自覚を持ち、そのうえで社会人として必要とされる判断力・表現力を磨く。	B	
	希望進路の実現	個々の進路に応じて学力構築・志望理由書の添削・小論文、面接指導を徹底する。	A	